

自由論題 8「東南アジアの金融・通貨」・報告 2

報告テーマ

ブルネイ・ダルサラームの開発におけるイスラーム銀行業の意義：貸出業務に着目して
“Significance of Islamic Banking in Bruneian Development: Analyzing Lending Operation”

氏名(所属)

上原 健太郎(京都大学)

要旨(800字程度)

本報告の目的は、ブルネイにおけるイスラーム銀行が同国の開発に対してどのように位置づけられるのか明らかにすることである。ブルネイでは 2008 年に、2035 年までに達成すべき経済目標としてヴィジョン 2035 が公表されて以降、これまで以上に経済分野においてイスラーム的価値を反映することが志向されている。一方、イスラーム銀行部門は、このヴィジョンが打ち出される以前の 1990 年代から政府主導で導入、展開されてきた。そこで本報告では、イスラーム銀行の運用状況がブルネイの開発とどのような関係にあるのかについて、その貸出業務に着目して考察を行う。

本報告の結果は主に以下の 2 点である。ひとつは、2010 年代の貸出が、特に企業部門向けにおいて銀行部門全体の約半分を占めており、ブルネイの生産活動においてイスラーム銀行業の重要性が示されている点である。もうひとつは目的別の貸出先が、消費目的の家計部門から生産目的の企業部門へと徐々にシフトしてきている点である。

マレーシアなど他の東南アジア諸国に対して、前者の結果は規模の面で開発に対するイスラーム銀行業のインパクトが比較的大きいことを示す。また、後者の結果については従来、ブルネイの開発という視点からイスラーム銀行を扱った先行研究、あるいは金融業の役割を示してきた国家開発計画では共通して、銀行による貸出の大部分が消費目的の個人ローンによって牽引されている点が問題視されていた。しかし、実際に貸出の具体的な内訳をみると、企業部門の中で石油・天然ガス関連産業への貸出が、2010 年代以降、増加傾向となっている。本報告ではイスラーム銀行が、石油・天然ガス関連産業への貸出を増加させることで、先行研究と国家開発計画で指摘された問題を解決しようとする新たな試みを明らかにする。